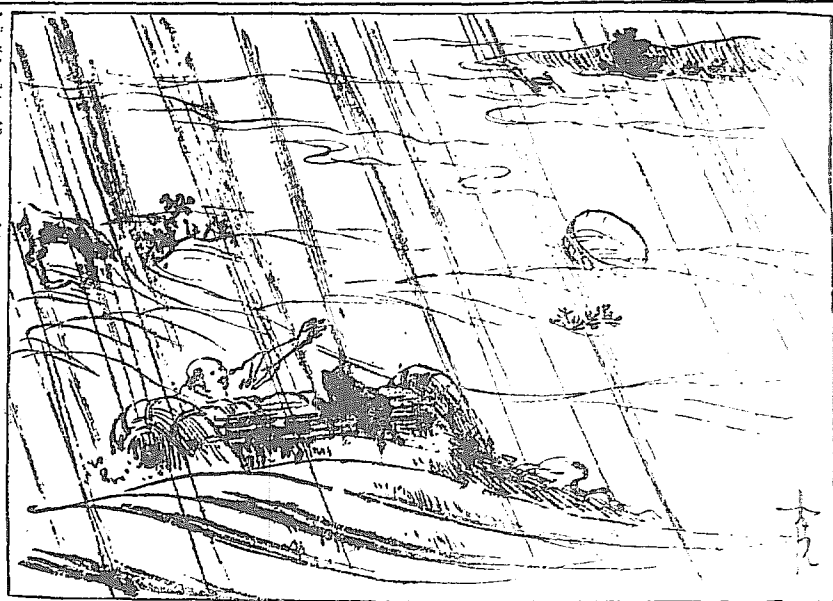


<p>謝近火御見舞</p> <p>今朝近火の祭は早速御通し付被下難 有来謝火並雜の折柄玉委寄名を同 有れも有之可く乍略儀に紙上御禮</p>	<p>謝類焼御見舞</p> <p>本類焼の祭は早速御通し附被下難有 来類焼の祭は早速御通し附被下難有 有れも有之可く乍略儀に紙上御禮上候 九月十八日 仁川京町通</p>	<p>赤松吉藏</p>	<p>仁川新町 田原辰次郎</p>	<p>九月二日 泉倉出服所</p> <p>要領有略儀に紙上御禮中上候 有来謝火並雜の折柄玉委寄名を同 有れも有之可く乍略儀に紙上御禮</p>
---	--	-------------	-------------------	--

第一百六十七席



泉河原、年々水のために此附近の者が困難いたしました、平生はあの通り水も少ない河原でございますが、八月月頃になりましたと山から水が押しつて参ります、それがために近村近郷田地田畑は申すに及ばず、家も土蔵もございせん悉く流されてしまひます、私も先年主總代として御領主戸川能登守様へ堤防築立方を願つて出ましたが御本丸御普請御用金其他で異多端の折柄であるから築立てる譯にはいかないといつてお取上げがございせん、それで據なく立歸つて参りましたが、數多の人達が難儀をいたしましたを見捨てず、近く譯にはありませんから私が蓄はへました金銀を悉く抛うつて昨年の初めから和泉河原の沿岸へ堤を築き立てる事にいたしました

新ハア 傳 然るにござう傳、左様でございます、土だけでも餘程要ります、併し幸ひに村内方々が御力添下さいますと土を運まする段候、それに工夫の手當なは村内一同お担ち下さる、手前志を一つで下さるのて大きに助かれます、手前が年々儉約々々といふ御誓案に生活するもの斯ういふ都合に用立てたいと思ひますばかり、假令手前其は田畑田畑山は申すに及ばず、家屋敷を手放して妻子を連れて路頭に迷ふやうになりましてと村の者が好ければ其で結構、この和泉河原の堤防が成就さへいたしますれば手前の財産などはござうなりまして、も差支へございませぬが何分にも士が保ちこんで度々洗ひ去られま

すが、かういふ事に心得のやうに

新荷着

の代、先鋒に甲陽の武田玄玄に任
て、甘四將の一人に擡げました。多田
流路守、藩書といふに之は甲陽武鑑
なりと記載してゐいますから御存
じてもよいませうが此人が初めて甲
州藩の軍學といふものを工夫致しま
した傳へ、ア、新山本勘助暗率とい
ふ人は眞正に無人物といへばやつ
ぱり甲州浪人小幡勘兵衛附屬とい
ふ人が武田が亡びて後徳川家に奉公
して大坂の城攻に之に謀略を考へた
名代の軍學者、此人が己れの工夫を
山本勘助といふ名に託して發表した
世にいふ山本勘助と記して小幡勘兵衛
の事でございます。傳へア是は初めて
承けました。新へア是は眞の甲州流
とは多田流藩守の工夫したもので、築城
に立、附城の法、城攻の法、城攻に
水火の二法、戦ひにも水火の二法、
すべて甲州流では水と火を用ひます。
長徳の城攻にも水をよく用ひました。
私も家に傳はるものでございしますか
ら幼少の時分から親父や兄貴によく
軍學を學ばせられました。傳へア、ア
其はさうも初めて伺ひます」

○日向島印子製造完結品 本館蔵

[illegible]

九月十九日午後
一時五十四分發

目下朝鮮京城開會中の家庭大博覽會本店賣店に於て

畏かしこくも

李 塲 公 殿 下
より

本日特に御買上の光榮を賜はれり

右謹みて報告す

（三）
 白粉本店
 十九日午後三時三十分
 著電

國產アンパイヤ號自轉車と
純英國製シヨウキタイヤは
輪車之代表的產物

直轄出入商
 發賣元 鈴鹿商店自轉車部
 朝鮮總代理店 京都市
 價 壹組中外共拾九圓五拾錢

滿蒙處分論 定價金一月
 京城日報代理部 換發貯金京銀三〇〇圓

改包
正紙
アル
ボ
ー
ス

從來樺色包紙を使ひ來り
し處同様の樺色包紙を使
ひし顧客を嘆きし苦なる類
似品數種あり依而弊社は

當

九月發賣

の分より包紙を白色に安
せり御購入の節包紙ご記
帳の屑橋製煉式會社の入
に御注意を乞ふ

惡疫豫防と

[illegible]

大黑天甲斐產葡萄酒
 元寶發鮮朝
 通門小西橋京
 會商昌弘
 七九七二話電
 山縣元宮崎商店

癸胃症患者に急告
 候の變り目には風引人數多夫れを
 關に付せに大患の速に治療を
 京城旭町三丁目一番地
 特得マツサージ
 電話三二五
 三三二
 二五
 長生堂
 (千前毛珍午後往修)
 廣告二女育久子非送の際には御多
 忙中御會非を辱し申上善有奉候一
 亡任張中操合せ出京の身に有之勞茲
 歸任差急ぎ出付誠に上候手紙
 以紙上厚く御禮申上候
 大正四年九月廿八日
 津郵兵治郎

刑妻シモ葬送の際には御遠路
 御會被下雖有御體申上候
 混雜の折柄御母伺洩れ申上候
 有之候間此段紙上を以て御
 禮申上候
 九月二十八日
 夫後藤相吉
 親族一人同
 友一人同

榮文館—賣捌大坂屋號

東西南北
▲滑稽粗忽三人
二十三日夕方

お何さんに替へて貸し利銀を奥様に渡して酒店の女房に渡して半截の紙幣は
したすて其夜更けて十二時頃井笠家へ届けて其夜は寝てしまつた

店の女房に取して半截の紙幣は
奥様と轡を掛けた習志家の地
へ屈けて其夜は寢てしまつた
あまうですか」と受取なり其

●●●
三昧太鼓で清土へ
京都奥組の旗組
野花南丸山の畠中に一頭の巨熊現
作物を荒し居るを見れば

94 1/2-22-5-1

THE

庫
 二
 京坡明治町(元濟醫院)
 中島醫院
 院長 中島良信
 電話三七八
 支店
 目丁二

